

第5回 郡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議

議事概要

日時：平成27年11月27日（金）

13:30～15:30

場所：郡山市役所 西庁舎5階5-2-1会議室

○開会

司 会) 定刻となりましたので第五回まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議を開会します。本日は小川委員、佐藤委員、藤田委員、本部委員が欠席となります。竹内委員に代わりまして須藤様が、大和田野委員に代わりまして坂西様が出席されています。初めに政策開発部長からご挨拶申し上げます。

政策開発部長) 本日はお忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。第五回の会議ということで、これまでたくさんのご意見をいただき、お手元に配布した「人口ビジョン」「総合戦略」の案を策定させていただいた。総合戦略の指標等については数値が入っていないところもあるが、本日のご意見を反映して、年内に案をまとめてパブリックコメントに付したい。本日は2時間という長時間を設定しているので、忌憚のないご意見をいただければと考えている。よろしく申し上げます。

司 会) 続きまして内藤座長からご挨拶をいただきます。

内藤座長) ご出席ありがとうございます。座長を引き受けてからテレビで地方創生の声を聞かない日はないくらい話題になっている。各自治体が色々工夫をしている中で、独自性を出せるのかというのは難しいところもある。人口問題一つとっても都市の総合戦略を考えるのに値するくらいいっぱいやることがあると思う。この会議は最終的には予算獲得のための戦略を策定することだが、継続的に郡山の将来を考えていく場になったような気がする。議論をここだけに終わらせず、行政当局でも総合戦略の中に組み込んでいくような形で検討いただければ幸いです。

最後はまとめの会になると思うので、本日は議論ができる最終回ということになるかもしれない。忌憚のないご意見をいただいてより良いものにしていきたいと考えている。

司 会) ありがとうございます。早速議事に入りたい。進行は内藤座長にお願いし

ます。

内藤座長) まず、資料についての説明を一括して事務局からいただいて、それから議論の場という形にしたい。

事務局) 資料説明 (略)

資料1. 人口ビジョン (案)

資料2. 総合戦略 (案)

資料3. いただいたご意見をどのように反映したかのまとめ

資料4. スケジュール表

参考資料1) 前回議事録

参考資料2) イベント案内

内藤座長) 今日は意見交換の時間を多く取ってもらおうということで事務局の説明を手短にさせていただいた。資料は事前に配布してもらったが、すぐにご意見をというのは難しいと思う。まずは今の内容についてご質問があれば。

首藤委員) 総合戦略 p.22 の主な取り組み事業にある「ファミリーサポートセンター事業」は我々の団体に請けている子育て支援事業。基本目標5の「笑顔で生きいきと暮らせるまちづくり」ではなくて基本目標3の「子育て支援・女性の活躍推進」に入るのではないかと思う。「ファミリーサポートセンター事業」が分野別事業一覧の基本目標5の施策2の7に入っているが、p.31 になるのではないかと思う。

事務局) 了解しました。

松原委員) 同じようなことで総合戦略 p.18 の「連携中枢都市圏の形成」は基本目標4「安全・安心に暮らせるまちづくり」に入っているが、この項目でいいのか。

事務局) 連携中枢都市圏については様々な分野で広域的な取り組みができないか現在調査を進めているところだが、取り組む分野が未確定ということと、かなり広範囲な分野にわたることが想定されている。例えば企業誘致であったり子育て支援、行政施設の共同利用、行政サービスのかなりの範囲にわたり検討を進めているので、取り上げる項目としては基本目標4がいいかと思っている。今後の検討の中で変更となることは考えられるが、現在検討している施策分野を勘案してここに入れている。

内藤座長) 他にございますか。

丹野委員) 総合戦略で数値目標を挙げているが、どのような考え方でこの数値を挙げているのかということがわかりにくい。次回で構わないが考え方を整理してほしい。例えば、p.22 の「認知症サポーター養成者数」とあるが、現状値と目標値がほとんど変わらないので掲げている意味がないように感じる。目標値が現状に対してどのような考え方で設定しているのかを整理してほしい。

内藤座長) 私からもお願いします。言質を取られることを恐れずに高い目標を目指し

ていきましょう。私から一点確認すると、(計画の策定に当たって) ミスマッチを防ぐために周辺市町村との調整は行なっているのか。

事務局) 先ほど連携中枢都市圏の位置付けの話があった。どのような分野でどのような取り組みができるかという調整をしているが、その中で総合戦略の策定状況についての情報共有はしているが、お互いどこまで入り込めるかというところは難しいところ。

内藤座長) みんなが郡山と同じことを目指すとバランスが崩れると思う。話せる範囲で相談していただければと思う。

事務局) 了解しました。

内藤座長) 質問が他になければいつも通りお一方ずつご意見を伺っていきます。上田委員からお願いします。

上田委員) 意見を反映していただきありがとうございます。総合戦略の p.3 の PDCA サイクルについて。座長からも話があったように作って終わりではなくて継続していくものということであれば数値目標を掲げることは良いが、PDCA の C (チェック) をどのように進めていくかということも計画に組み込んでいただきたい。教育者としては、産学連携による相互作用などがちゃんと書かれているかということが気になる。

内藤座長) 東北大学も郡山で何かやりたいという話もあるので、大学間の連携というのも必要になるかもしれない。学力を上げる必要もあるという話も聞いているので。

大和田野委員代理坂西氏) 産総研福島研究所所長代理の坂西です。事前に送っていただいた資料を見させていただいた。我々の研究所も発足して1年半。地元の大学や企業、市役所、周辺自治体とも交流をさせて頂いている。人口ビジョン・総合戦略の目標達成のため、研究所に隣接する西部第一工業団地への企業誘致や日大工学部、地元企業との連携に加えて郡山都市圏全体との連携などの面での貢献も必要になってくると考えている。

内藤座長) 産総研には独身者が多いということで、大和田野所長とは人口増のために結婚の促進や単身赴任者が家族を連れてきてもらいたいという話をしてきたが、何かアイデアがあれば。

大和田野委員代理坂西氏) 産総研はつくばから移転してきたため単身赴任者が多いが、子どもの入学のタイミングに合わせて家族を呼んでいる者や結婚相手をつくばから連れてきた者も出てきている。つくば市とは友好都市ということだが、つくば市との比較でも郡山は住みやすいまちだと感じている。つくば市は研究所が多くて工学博士がたくさんいるまち、西洋的だが殺風景なまちという印象がある。つくば周辺の守谷市や柏市は住みやすいまちランキングで上位になっているが、郡山市も交通の便がいいので教育環境がもう少し良くなってくればこ

ちらで結婚して子どもを育てる人も増えてくる。就学のタイミングで転入してくるということも考えられる。産総研としては郡山市周辺での現地採用を増やしている。我々の研究所は正規職員に対して非常勤職員が倍程度いる。加えて、周辺の大学や企業からも研究者が集まっている。つくば市でもそうだったが独身の職員と研究所に集まる地元の方が結婚していくことがこれから増えてくると思う。

現在は郡山駅周辺に住んでいる職員が多いが、西部工業団地のそばにコンビニエンスストアができると聞いているので外国から来る研究者が住めるような宿舎やゲストハウスの整備のニーズも出てくる。現在進められている磐越西線の新駅整備や国道 49 号沿道のまちづくりによって、工業団地と市街地の間をつなぐような市街地が形成されれば、工業団地開発との相乗効果で人口が増えるのではないかと考えている。磐梯熱海のあたりに住んでいる人もいるので、そちらともうまく繋いでいくまちづくりが進められるといい。

内藤座長) 郡山は暮らしやすいという話があったが、具体的にはどういったことか。

大和田野所長代理坂西氏) 私は単身赴任なので、休日は日帰り温泉巡りをしている。

観光施設が多くあるし、外国人のお客さんを風光明媚な猪苗代湖、五色沼、布引高原に連れていくことも多い。まちの作りがそういうところに歩いていけるようになっていたりことや食生活の豊かさが挙げられる。田舎の雰囲気を残しつつ 30 万都市であるということが魅力かと思う。

内藤座長) 我々が当たり前のように感じている感覚が鈍くなっている部分での「暮らしやすさ」というのは新鮮な眼で見ていくとあるのかもしれない。それでは小松委員。

小松委員) これまで農業、農村の地域づくりに関してコメントをしてきたが、かなり施策に反映していただいたと思う。農業については総合戦略の基本目標 1 の施策 3 として位置付けられており、先行して策定された「食と農の基本計画」とも整合が図られているものと考えている。地域づくりの面では p.33 に市民協働政策提案事業や町内会活動促進事業が取り上げられているが、案のように基本目標 4 の施策 1 の中に位置づけるか、基本目標 2 の施策 3 に位置付けるかという点について、方向性を実現するための政策パッケージとしてどちらが相応しいかという視点から再検討することが必要。基本目標 4 の方だと連携中枢都市圏やストックマネジメントなどの大きなテーマに埋没してしまいメッセージが伝わりにくい印象を受けた。

内藤座長) 女性委員が多くないので聞きたいが、いろいろな意見の中で女性が働きやすい職場がないという話、子育てをしながら働くことの難しさということが指摘されていたが、その辺についてはコメントありますか。

小松委員) 施策については考え得るものは入れていると思うが、推進体制をどうする

かがはっきりしていないこと、本当の暮らしやすさを考えた時に施策の間を埋めていくような取り組みが必要かと思う。

内藤座長) それでは首藤委員。

首藤委員) 子どもの定義は18歳というが、18歳まで成長すればある程度自立はしている。支援が必要なのは小学生・中学生くらいまで。その年齢層の子どもへの支援がある都市は魅力的だと思う。少子化ということもあり全国どの自治体でも子育て支援をやっているが、郡山市が他の自治体に負けないようにしなければならない。そう考えた時に基本目標3の施策2の一覧を見た時に未就学児に対する支援に偏っているように思う。これから学校に上がる子どものいる親が郡山市に住もうと思えるようなものがない。郡山市は大きなまちなので教育水準が高いが、それは各家庭でお金をかけて塾に行かせたりスポーツ少年団に入れたり習い事に行かせたりということをしているから。小学校年代になると親の経済力の差による格差の影響がある。小学校年代の子どもになるべく格差が生まれないような仕組みを行政側で作っていくことを期待したい。基本目標3の施策1「妊娠～出産～子育ての切れ目のない支援」のところで郡山市でしか得られない質の高いきめ細かで実際に使える支援を行っていくというアピールがあればいいのではないかと思う。施策1の具体的な施策としては放課後児童クラブがある。福島市は民設民営の放課後児童クラブが多いが、郡山市は基本的に公設公営のものが多く、公設公営の児童クラブでは遊びや習い物に行けないなどの窮屈なルールがある。我々の団体でも放課後児童クラブをやっているが、ニーズに合った柔軟なサービスが必要だと思う。施策2のところで挙げられている施策は当たり前に行われていなければいけない施策であって、アピールとしては弱いように感じる。

内藤座長) 具体的な施策については詳しくヒアリングをしていただくとして、NPOのソーシャルビジネスなどの新たなサービス産業を支援するスタンスがあってもいいと思う。子育て関係の分野は行政で一律にできない分野だと思う。

首藤委員) もう一つ言いたかったのがまさにその部分。震災後に数多くのNPOや企業の子育て支援の活動を立ち上げたがバラバラに動いている。行政、NPO、企業がお互いの足りない部分を補って協働して子どもたちの体力向上などに取り組んでいくことが必要になっている。協働というのがキーワードになってくると思う。

内藤座長) それでは続いて竹内委員の代理で須藤さんをお願いします。

竹内委員代理須藤氏) 東邦銀行の須藤です。これまで会議で出された意見が反映された案になっていると思う。全体的に図や表もわかりやすく配置されている。施策についても数値目標が設定されるということでこの通りでまとめていただければと思う。ポイントはPDCAサイクルをいかに回すかということだと思う。

内藤座長) 一点だけ。学生が卒業した後の奨学金の返済の負担が重いという問題があり、自治体で減免措置をやっているところがあるようだが、金融機関に出来ることはあるか。

竹内委員代理須藤氏) 私共で用意している奨学金は返済不要となっている。おっしゃっているのは日本育英会等の外部の奨学金かと思う。おっしゃる通り、大学に入る方の多くが奨学金を利用されているので金融機関として返済のための借り換えなどの面でお手伝いはしている。

内藤座長) 東邦銀行さんは助成金の制度も用意していましたね。それを拡大していただければと思います。続いて丹野委員。

丹野委員) 私が意見を申し上げた人口目標 30 万人の根拠や産業の部分については今回の新しい資料では対応していただいたのでありがたいと思う。18 歳は子どもかという話があったが、アンケートなどを見ると、大学進学する子どもにかかるお金(入学金、授業料、仕送り等)のことを考えると子どもを東京に出すことは相当経済的な負担になる。実際には親がローンを組むなどして対応している。先ほど奨学金の話があったが U・I・J ターン者に対する奨学金の返還支援を考えたい。大学進学で東京に出ても郡山に戻れば奨学金の返還が軽減されるということであればインセンティブになる。金額は小さくてもいいので他の自治体でやっていないような特色ある施策としてぜひ検討してほしい。

総合戦略の p.27 に企業誘致や農業の 6 次産業化と一緒に創業支援の施策が入っているが、創業支援事業は性格がかなり違う。研究機関と連携した創業支援は郡山市の特色になるので、施策 2 に入れた方が良いかもしれない。

目指すべき方向性で魅力的な地域づくりというのがあった。どこの地域でも中心市街地の活性化や駅前整備が課題だが、郡山も駅前などはシャッター通りになっているところもあり、全体としてまちづくりの観点が薄いような気がする。魅力的なまちづくりをやるということであれば息の長い取り組みになり、他の計画と重複するかもしれないが、もう少し強調しても良いかと思う。

内藤座長) ありがとうございます。次は松原委員。

松原委員) 資料に目を通しましたが、かなり盛りだくさんで事業の中身までは確認する時間がなかった。方向性、人口ビジョン、総合戦略についてはこれまでの意見が盛り込まれているのでよろしいかと思う。先ほどから出ているように PDCA の C と A については期間を区切って見直すようお願いしたい。施策のリストについては担当部署を明らかにしておけば分かりやすくなる。p.34 の中で総合戦略策定事業とあるが、戦略の策定そのものが入っているのはいいのか。事務局) 策定事業自体も交付金の対象になっている。補助金を使っているものは載せるというルールなので、そのようにしている。

松原委員) 施策パッケージについてはこれが最終案ではなくて、今後加えていっても

いいのかと思っているのご検討ください。

内藤座長) 続いて三森委員。

三森委員) p.35 の基本目標 5 の施策 2 の 3 「認知症総合支援事業」について、個人的な話だが、生徒さんに認知症が疑われる人が出てきた。早期発見・早期治療が効果的ということなのでなんとかしてあげたいと思うが第三者が家族に伝えるのはどうかと思った。結局家族が病院に連れて行くことになったが、ある年齢になったら必ず認知症検診を受けるということになれば手遅れにならずに済む。他の自治体でやっていないのであれば先進的な取り組みとしてインパクトがある。あとは徘徊高齢者家族支援事業。夜に車を運転していた時に徘徊高齢者が車道に寝ているのを見たことがある。家族だけで見守るのは難しいので。

内藤座長) 「認知症サポーター」という制度があるがその数値目標が低いという話があった。全員が検診を受けるというのは難しいかもしれないので、すべての医療機関に認知症サポーターがいるという目標でもいい。本人からは受診しないので義務化をという話だが、予算の問題は別にして対策を検討することが必要。

事務局) 男性の育児休暇の話と同じで、制度があっても使われないということになっては仕方ないので、地域社会のコンセンサスを得ながら進めていく必要があるかと思う。

内藤座長) 最後に吉田委員から。

吉田委員) 労働者の代表という立場で出席しているが、今回の資料は「こうあればいい」という目標であるということだが、具体的に「こうすればこうなる」という数値目標を埋めていけば違うものになっていくと思う。工業団地の整備を進めているがなかなか企業誘致が進まないということで焦れたい部分もある。郡山市の人口規模を考えれば大げさな目標を設定する必要はないということもあるが、人が集まってまちが活性化してまちが良くなるということが必要。

自分の職場でも 30 代 40 代の未婚者が増えている。結婚する人が増えなければ子どもは増えない。そのためには結婚できる環境が必要。結婚してやっていけるだけの職場がなくてはいけない。また、人を引きよせるようなものも必要と感じた。郡山駅周辺は県内では夜の来街者が比較的多いまちだが、以前と比べれば人は少なくなった。日中は車の交通量が多い。賑わいづくりについても整理が必要かと感じた。

内藤座長) ある方が「東京周辺では年収 500 万円にならないと結婚しない」と言っていた。もちろん物価の問題もあるだろうが。組合ではそのような話はあるか。

吉田委員) 結婚のネックとしては賃金大きいという話になっている。

内藤座長) だとすると企業の責任もあるということになりますね。最後に私からもコメントさせていただきます。日本全体の人口は予測されている数字以上になる

ことはありえない。人口が増えたとしたら周りから吸い取るしかない。エリアのことを考えれば郡山市は人口的には勝ち組に入って郡山に来る人が増えると予測しているが、周辺市町村は人口が減る。それぞれが均衡ある発展を目指すとなかなかうまくいかずに結局東京に人が流出し続けるということになりかねない。本来は福島県全体のエリア別の戦略があつて、郡山市は都市と田園のあるまちということであればよいが、地方創生の中では周りとの協調も必要と考えている。

私の町内会では一人暮らしの高齢者が多く、子ども会が成立しないという状況。町内会の会長のなり手がいないという問題も出ている。「新しい公共」という概念も出ているが現実的にはそうっておらず、具体的にどうしていけばいいのか難しい。沖縄は出生率が高いが、鍵をかけなくてもいいような土地なので子どもはみんなで育てる、高齢者はみんなで見守るという地域であることが影響している。そういうまちを目指せばという気持ちはあるが、具体的に実現するのは難しい。

女性の人材を確保するために柔軟な勤務形態で雇用する企業が増えるように市から表彰などの形で働きかけるなどして子育てに熱心なまちであるとアピールしても良いのではないか。

福島県までは外国人観光客はそれほど多くは来ていないが、上野駅には外国人向けの多国語情報端末が設置されていて、そういうものが必要なくらい外国人観光客が増えている。郡山市でもインバウンド観光を意識して外国人に対するメッセージを強化してもいいと感じた。WiFiも庁舎内などというケチなことは言わず、郡山市全域に広げるなどしてアピールしていくことが必要になっていると思う。

うちの娘二人が第三子を産んだばかりだが、三人目は親の助けがないと難しい。多彩なサービスを提供するNPOがあつて子育てを代行してくれるということでもなければ現実的に第三子を生むことは難しい。三世同居に対する補助金のことが報道されていたが、高齢者の面倒を家庭で看ろと言っているような気がしなくもない。

いろいろな意味で暮らしやすさをアピールした方がいい。ある人が地方の生活費は東京の生活費の半分と言っていた。駐車場代が月4万円かかる東京と、もしかしたら年収200万円でも暮らせるかもしれない地方。生活費が圧倒的に安いということはあまり知られていないので戻ってくることに抵抗感があるのかもしれない。暮らしやすさのアピールの仕方はいろいろある。

ここからは議論の時間ということで、後30分くらい確保している。前にも議論したが郡山の教育水準が高くないので子どもを連れて行きたくないという母親がいるとPTAで問題になっていると聞くが、学校別で見れば低いわけではな

いという話もある。外から来られてそういったことを意識したか。

上田委員) 私は富山出身で家族を東京に残している。前回は話をしたが、教育県で知られる富山は公立高校の普通科では県教委の方針で修学旅行は禁止されている。私は中学しか修学旅行の記憶がない。それがいいとは思わないが。調べてみると郡山市には日大東北高校をはじめ進学校があつて、いい大学にかなり進学していてそれが流出につながっている。親の立場からすると郡山の高校のレベルが低いという感覚はない。他の県と同じように、高等教育は東京で受けさせたいという思いはある。地元富山と比べると郡山には日大工学部もあり、地元で特色ある大学に進学できて、市の支援も受けられるということで言えば富山よりも魅力がある。総合戦略の p.11 で大学生等インターンシップ推進事業を挙げられているが地元就職したい学生・地域の企業にとって魅力的な施策だと思う。学生が実業に近い勉強ができるというのは郡山市の魅力としてアピールできる。基本目標6の施策2でグローバル人材育成海外派遣事業を挙げているが、生徒の保護者の興味を引くと思う。東京をパスして郡山から海外に行けるということをアピールすれば郡山でも東京に負けない教育が受けられる、東京は関係ないということになるかと思う。世界的に見れば東京はトップという訳ではない。うちの大学でも海外派遣はやっていて、年々人気が高まっている。

内藤座長) 海外に行った人は地元に戻る傾向がある。東京に行くと大体戻ってこない。

上田座長) それはある。外国に転勤すると日本に帰りたがる。

内藤座長) 福島大学はリージョナル・ユニバーシティということで実学や地域への貢献を重視されている。地域に貢献したいという学生は増えていると聞くが実感としてどうか。

小松委員) ボランティアサークルに入る学生も多く、地域に出向いて行う「村の大学」というカリキュラムを受講する1年生も多い。学生の地域志向は高まっている。福島大学は県内学生比率は半分くらいで、他も東北三県出身者が多く域内の学生が多い。地元で働きたいという意思の強い学生が多いが、こうした学生は就職先として公務員か地銀くらいしかイメージできない。在学中に地元企業との接点を持つことで地域で働く選択肢を知ること、企業側のニーズを大学側に取り込むなど、密接な関係を築いていく必要がある。潜在的には地元志向の学生がもっといるので、選択肢が見つけれずに東京に出るのではなく、もう少し地元に残るようになるといい。

内藤座長) 奨学金の話があつたが福島大学はどのくらいの学生が使っているか。専修学校では使う学生が増えていると聞くが。

小松委員) 公的なものは親の所得制限もある。大学進学者で奨学金を使わない人は少なくなってきた。有利子でも奨学金を使う学生は増えている。

内藤座長) 親も余裕がなくなってきましたから。返済について不安という話はある

ますか。

小松委員) 震災後は「就職しなければ」というプレッシャーが高まっている。学卒で必ず就職しなければ、という雰囲気はここ数年強くなっている。

内藤座長) 産総研の職員は福島教育レベルについてはそれほど問題視していなかったようだが。

大和田野委員代理坂西氏) 私の子どもは福岡にいる。私の出身が久留米市。この4月に来たばかりなので高校のレベルは分からないが、つくば市の例でいうとつくば万博から30年、産総研などがつくばに移転して40年、東京教育大のつくば移転の閣議決定から50年が経過している。つくばエクスプレスもできて年々住みやすくなってきている。昔は土浦一高が名門校と言われたが、今は学園都市内の高校のレベルが上がっていて入るのが大変。つまり研究学園都市になって教育レベルが上がるまで30年以上かかっている。地元の大学や研究機関、地元企業が魅力的になって地元就職する学生が増えるようになればいいと思う。

内藤座長) つくば市にレベルの高い高校があって、研究機関があって、地元がいい就職先があればつくばの大学に進学すればいいじゃないかとはならない。

大和田野委員代理坂西氏) 例を挙げると、つくばで生まれてつくばの高校を卒業して筑波大学に進学して博士号を取ってつくばの研究所で働くという人も出てきているがそれは特殊な例。つくば市は基本的に全国から人が集まる場所。

内藤座長) 20年後には郡山も研究学園都市になっているかもしれない。

大和田野委員代理坂西氏) 郡山市はつくば市と姉妹都市。つくば市の市長とも話したことがあるが、つくば市も30年がかりだった。震災からもうすぐ5年。東京オリンピックに向けて新技術の開発も進む。長期的なビジョンを持って進む必要がある。

内藤座長) これからいろいろな企業が立地することになるが、若者が居なければ伝達されない。人材流出を防ぐためにも大学は大事だと思うが、定着が難しいので知恵を絞る必要がある。

大和田野委員代理坂西氏) 茨城から福島の沿岸部には日立とかいわきに工業地帯があって大学もある。福島全体で見た時に、郡山からいわきの福島高専に入った学生が郡山に帰ってくる受け皿があればいい。少子化が進むにつれて学生の地元志向が強まっているので、まちづくりの中に生涯教育を取り入れたり外の大学に行っても戻ってくるができる工業団地などがあるといい。

内藤座長) 産総研の経済波及効果を期待している地元経済人が多いのでよろしく願います。

大和田野委員代理坂西氏) 産総研福島研究所は予想以上に人が増えていて、常勤50名非常勤100名、大学企業からの受け入れも合わせると300名くらいいて、先日避難訓練があって名簿を作成したら駐車場が足りないことが分かった。グロー

バル認証基盤施設の整備も行っており、西部第一工業団地の企業誘致など産業活動の呼び水になるような役割を果たせればと考えている。我々の取り組んでいる再生可能エネルギーや現在整備が進められている医療関係の研究施設などのPRをしていけば自然と若い人が集まってくると思う。

内藤座長) 温泉情報も発信いただければ。丹野委員から奨学金の話があったが、行政として返済減免措置はできるか。また効果は期待できるか。

事務局) 県内では実施している自治体が多く、やっていないところの方が少ないかもしれない。どこまでやるかという差はあるが。本市でも財源の手当は必要だが検討はしている。実施になるかは分からない。

内藤座長) 我々企業人としては、採用したら一部返還を手伝ってもいいというくらい人手不足感はある。やっていいのかとなると悩ましいところがある。奨学金返還減免があれば戻ってくる学生は増えるだろう。他の都市でも今後始まると考えられるので、郡山市でもぜひ実施してほしい。

丹野委員) 若い人が東京に流出することが心配されているが、首都圏では高齢者が多くなりすぎて介護サービス従事者が足りなくなって住みにくくなることが予想されている。地方ではまだそういう状況ではないので、高齢者が動けるうちに地方に帰ってもらうということをアピールした方が良い。自分は新潟に単身赴任で東京に家がある。東京は今後ますます高齢化が加速するので、後10年もしたら住みにくいまちになるのではないかと思う。地方の方が生活費も安いし住みやすい。年金が少なくて生活できないという話があるが、地方なら東京よりも生活費が安い。空き家の活用も考えられる。生活費の安さは地方の魅力の一つなのでアピールした方が良い。いずれ東京に住んでいる高齢者が押し寄せてきたら、優先順位を決めて制限しないとパンクしてしまう。

内藤座長) 三森委員に聞きたいが、私には娘がいて孫の面倒をみることがあるが、孫の面倒をみざるをえなかったことはあるか。

三森委員) うちには息子が一人。先ほど奨学金の返還の話があったが、うちは学部までは親が負担して、大学院からは奨学金を使って自力で行かせたので卒業する時は借金が凄かったが、教職に就いたので返済が猶予されて返さなくて済んでいる。今は銚子で大学の教員をしている。39歳で独身だがなかなか結婚相手が見つからない。さすがに生徒さんというわけにはいかない。結局私が結婚相手を探した。男性もある程度の年齢になると結婚相手に対する希望も多くなるようだが、容姿や外見ではなく、一緒に生活をしてお互いが向上していくことができる、どこでもいいので尊敬できる点があればほとんどのことはなんとかなるということ saying came.

内藤座長) 結婚適齢期は30代と言われるが、郡山では年収はどのくらいになりますか。

吉田委員) 平均すると年収300万にいくかないか。

内藤座長) 子どもを東京に行かせるのもなかなか厳しいということで地元に残らせる
と経済格差が世代を超えて固定化してしまうという問題が出てくる。平均給与
を上げなくてはいけないが、企業も生き残るのに精一杯。

吉田委員) そうですね。

内藤座長) 大変な状況だがそれをおいても結婚するように組合の方でも検討してほし
い。前の会社では組合主催のダンスパーティーがあった。

吉田委員) 組合の代表同士の交流はあるが若い組合員同士の交流がない。自分たちが
若い頃はもう少し交流が盛んだったが、今の 30 代 40 代はそういう機会が少な
いと感じる。

内藤座長) 最後に子育て支援について言い残したことはありますか。NPO の方々はど
のくらい活動しているか。都内には育児の様々なニーズに対応する NPO がある
ようだが。

首藤委員) 郡山では障がい児を預かるデイサービスや病院と提携して病児を預かるデ
イサービスなどは増えてきた。ただ、急に預けなければならない事態になった
時に預けられるところがあるかというとなし。三世代同居であれば祖父母世代
に頼れるが、三世代同居でも祖父母世代が要介護になったら今度は介護もしな
ければならなくなることもある。そういう事態になったときにつなぐ先がなく
て苦慮している。一方で安易に出産・離婚してシングルマザーになって無料で
支援が受けられると勘違いしている人がいる。役所につなぐが役所でも対応に
困っていると聞く。

内藤座長) ひとり親家庭を優遇することで人口が増えるという人もいるが。

首藤委員) ひとり親になって幸せになるケースもあるが、家庭の中で子どもを育てら
れればそれがベスト。愛や思いやりは教育の中で培われる。高齢者による見守
りというが、ちょっと見られただけで不審者だと言うような親子がいる。全部
つながっていると感じる。

内藤座長) 市長は右手に「認知症サポーター」、左手に「子ども見守りサポーター」の
リングをつけているが、こういうものを見せられるようにしなければならない
のかもしれない。迂闊に声をかけられない。

首藤委員) 泣いている子を抱えて買い物をしている母親を手伝おうとしたら不審者と
思われたという話があった。手が空いているので手伝いたいけどどう思われるか
わからなくて声をかけられない。若い母親たちは助けが受けられない。そうい
うアンバランスがある。目印をつけないととも出せない。

内藤座長) 難しいと思うのは、20 年後の人口というのは都市の総合評価の結果だとす
ると、総合計画が地方創生にとって一番大事な計画かもしれない。この会議を
きっかけに継続的に PDCA サイクルを回して住みやすいまちを作っていればと
思う。そろそろ時間ですが言い残したことがあれば。

上田委員) 総合戦略の基本目標1の施策3「農業の成長産業化」について。私の専門分野は情報通信だが、農業へのIT関連の投資先を探している企業がある。郡山はいいロケーションなので注目していただければと思う。

内藤座長) ITを使った農業ということで、多くの農業者のビッグデータを活用して人工知能で活用するというようなこともある。

上田委員) そこまでいなくてもセンサー化とかスマートフォンの活用などもある。

内藤座長) 今、温室の地中熱の実験をやっている。以上で終わりにしたい。

○その他

司 会) 長時間にわたり有難うございました。その他何かありますか。

内藤座長) セミナーの案内があったが。

司 会) 有難うございます。来週の月曜日に地方創生・広域連携セミナーを開催する。座席に余裕があるので是非ご出席いただきたい。次回有識者会議は来年1月下旬を予定している。

内藤座長) 今日が意見を盛り込める最後のチャンスということで、今回はまとめの会議になると思う。

○閉会

司 会) 欠席された委員からも意見を頂いている。以上で第五回まち・ひと・しごと
有識者会議を閉会します。有難うございました。

以上